

日本経済新聞夕刊(2026年2月2日)

## 駐日東ティモール大使 「ASEAN加盟で 日本の投資増期待」

本経済新聞の取材で  
東ティモールのデレジ  
ニヤ・ビエガス大使は日  
2



ビエガス大使

025年の東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟が「日本企業の進出にいい影響を与えていた」と述べ、さらなる投資の増加に期待を示した。災害対策などで日本の経済協力の拡大も求めた。月26日のASEAN首脳会議で11番目の加盟国に

なった。オーストラリアとの間にある海域の天然ガス・石油開発が国家の大好きな收入源になってきたが、資源の枯渇で同年6月に生産が終了。このためASEAN加盟を通じて、雇用を生み出す産業への外國投資や貿易の拡大をめざしている。

ビエガス氏は日本企業の進出例として、常石造船の造船所や伊藤忠商事による太陽光発電所の建設計画を挙げた。常石造船の投資について「石油

角化と海洋経済の発展を通じて、国内経済の強化に貢献してくれるだろう」と強調した。

常石造船が進出する」と、「他の日本の大手企業が投資を検討することにつながるし、さらに日本以外の企業が投資するのを促すこともありそうだ」とも指摘した。